



金川千尋FEC会長が逝去

22年間 民間外交の推進に尽力



金川会長とFECのあゆみ (主な抜粋)

2001年6月	FEC国際親善協会（現・民間外交推進協会、以下FEC）会長に就任
2007年6月	日本人として初めて、エジプト外務大臣から表彰状が授与された
2008年5月	ベトナム政府が授与する外国人に対する勲章としては最高位の友好勲章が授与された
2009年1月	パルヴァノフ・ブルガリア大統領と秋篠宮さま、秋篠宮妃紀子さまを来賓として迎え、日本・ブルガリア国交再開50周年を祝う「日本・ブルガリア友好の催し」を在日ブルガリア大使館と共催で開催した
5月	ブルガリアと日本の親善と友好関係の発展に貢献したことが高く評価され、ブルガリア政府が授与する外国人に対する勲章としては最高位の「スタラ・プラニナ」勲章が授与された
9月	モンゴル・日本両国の友好関係に貢献したことが高く評価され、モンゴルの外国人に対する勲章としては最高位の「北極星勲章」が授与された
2010年1月	ニカラグア・日本両国の友好関係ならびにニカラグアの経済発展に貢献したことが高く評価され、ホセ・デ・マルコレタ勲章「グラン・オフィシャル勲章」が授与された
2月	ポーランドの経済発展ならびにポーランド・日本両国の経済交流、友好関係に貢献したことが高く評価され、ポーランド共和国功労勲章「コマンドルススキ十字型勲章」を授与された
2011年11月	東京大学大学院から博士（学術）の学位記が授与され、金川会長と長年にわたり親交がある中曽根康弘元首相を代表とした発起人に、FECが事務局となり祝う会が開催された
2013年12月	来日中のグエン・タン・ズン・ベトナム首相と会談した 安倍晋三内閣総理大臣を招き、「安倍外交の課題—地球儀を俯瞰する積極的外交展開」をテーマに第176回国際問題懇談会を開催した
2014年3月	国賓として来日されたチュオン・タン・サン・ベトナム国家主席と迎賓館において会談した
2015年3月	来日中のフン・セン・カンボジア首相と会談した
2020年9月	FEC会長在職20年の感謝状が贈呈された

民間外交推進協会（FEC）の金川千尋会長は2023年1月1日に肺炎のため逝去されました。金川会長は2001年6月に当協会第5代会長に就任して以来22年間、当協会の会長として民間外交の推進に尽力されました。当協会の会員を代表して会長の眞摯な民間外交への取り組みに敬意を表し、賜りました温かいご指導に心より感謝申し上げます。

金川会長は経営トップとして極めてご多忙の中、当協会の活動に情熱をもって取り組んでくださいました。会長の力強いご指導力のもと、当協会は多岐に渡る活動を実施することができました。ベトナム、ブルガリアをはじめとした各国の元首や外務大臣、通商大臣との会談、駐日大使によるビジネスセミナー、国別委員会は視察団を海外に派遣する等、会長のご指導のもとで実施した取り組みは、当協会の活動の堅固な柱になっています。

昨年は、ロシア軍による軍事侵攻で苦しむウクライナの人たちを憂いた金川会長の呼びかけによりまして、当協会は会員の皆様からのご賛同をいただき

ウクライナへの寄付をいち早く実施しました。このように会長の温かい心と卓越した決断力とご指導により実施してきました民間による国際交流と相互理解にむけた活動は枚挙にいとまがありません。

山本五十六連合艦隊司令長官を尊敬されていました金川会長は、執務室に山本長官の写真を飾られていました。「私のやることを山本長官が後ろから見て下さっているので、恥ずかしいことはできません。」とお話されたことは忘れることができません。当時の政府と軍部では開戦派が大勢を占める中、開戦反対という正論を唱え続けた山本五十六長官のお話を伺い、時流に流されず正しく世界情勢を見極めることの大切さを教えていただきました。

金川会長のご指導なくして今日の当協会はありません。会長から賜りましたご指導を当協会の活動規範としてしっかり継承しながら当協会の活動とますますの発展に取り組んでまいります。長年にわたりまして温かいご指導を賜りました金川会長に心より感謝申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

国交50周年 良好関係更に発展へ

フレルスフ・モンゴル国大統領歓迎朝食会

FECは11月30日、来日中のモンゴル国オフナー・フレルスフ大統領との歓迎朝食会をホテルニューオータニ東京で開催した。朝食会には、モンゴル側からオフナー・フレルスフ大統領のほか、バトムフ・バトツェツェグ外務大臣、ダンバダルジャー・バッチジャルガル駐日モンゴル国特命全権大使等8人、FEC側からは松澤建FEC理事長、福田泰久FEC日モンゴル文化経済委員会委員長（センコーグループホールディングス㈱代表取締役社長）、松元崇国家公務員共済組合連合会理事長（元内閣府事務次官）、城所卓雄FEC日モンゴル文化経済委員会顧問（元駐モンゴル大使）等8人が出席した。

今年は日本とモンゴルの外交関係樹立

50周年を迎える節目の年でもあり、フレルスフ大統領は11月29日から12月2日まで東京や京都を訪問した。滞在中は天皇皇后両陛下とのご会見、岸田文雄首相とも会談した。短期間の滞在であったが、FECに在日モンゴル国大使館から朝食会の申し出があり開催に至った。また、フレルスフ大統領とは首相時代の2018年12月来日時にも歓迎会を実施しており、それ以来の歓迎会になる。

冒頭、松澤理事長が「大統領閣下とは2018年の首相時代にお会いして以来の再会だが、大統領になられて改めて歓迎朝食会を開催できることは名誉なことだ。モンゴルの人々の幸せと発展、そしてフレルスフ大統領閣下の更なるご活躍を祈念したい」と述べた。



それに対して、フレルスフ大統領は「本日は朝食会にお招きいただき感謝申し上げます。日本とモンゴルは今年、外交関係樹立50周年を迎えた。良好な両国関係を更に発展させていきたいと考えてい

る。FECがモンゴル訪問団を実施する際は是非サポートしたい」と述べた。その後、朝食を共に意見交換と自己紹介を行い有意義な懇談が行われ、懇談後は全員で記念撮影を行い終了した。

「一期一会」信条にイベルメクチン研究

FEC東京国際フォーラム 大村智北里大学特別栄誉教授(ノーベル生理学・医学賞受賞)

FECは12月14日、大村智北里大学特別栄誉教授を招きFEC東京国際フォーラムを明治記念館で開催した。松澤建FEC理事長の開会挨拶の後、大村教授は、多くのスライドをスクリーンに映しながら「イベルメクチン物語」をテーマに講演を行った。

【講演要旨】

私は山梨大学を卒業後、都内の工業高校の夜間部で教えながら東京理科大学大学院で理学修士号を取得した。1965年に北里研究所に入り抗生物質の研究を始めた。最初に手掛けたのは、当時構造もわからずに実際に臨床で使われていた抗生物質の構造決定の研究だった。大学院で学んだことを基にいくつも抗生物質の構造決定をした。しかし、人の見つけた化合物の研究をするのはフェアではないと考え、地球上のあらゆる環境から微生物を分離し、独自の探索方法を開発して、分離した微生物の培養液中に求める化合物があるかを調べるいわゆる泥をかぶる研究に方向を変えた。大村研究室では、2万株の菌株を保存し、これまでに522の化合物を発見し、うち26種が医薬、動物薬、農薬として実用化されている。

人生最大の転機が71年からの米国・カナダ出張と留学だ。米国製薬大手メルク社の中興の祖といわれたM. ティシュラー教授に客員教授として招かれ、多くの



著名な研究者と交流した。ティシュラー教授に紹介されたメルク社から破格の年間8万ドル（約2500万円）の研究費を確保し、帰国後メルク社との共同研究の下、主として動物薬の研究に注力した。74年に静岡県川奈の土壌から新種の放線菌を発見し、79年にこの放線菌からエバーメクチンとイベルメクチンを開発した。イベルメクチンは画期的な抗寄生虫動物薬として、81年の発売3年後から20年余売り上げ世界一を記録した。また、人用製剤としては寄生虫病オンコセルカ症（河川盲目症）及びリンパ系フィラリア症（象皮症）の特効薬となり、87年よりメルク社と北里研究所から無償供与が開始された。

アフリカ・中南米の多くの国がイベルメクチンを年1回集団投与し、蔓延して来たオンコセルカ症を撲滅した。リンパ



系フィラリア症も2000年からイベルメクチンとアルベンダゾールの併用投与により撲滅に効果が上がっている。糞線虫症、疥癬にも効用があるイベルメクチンは世界で5億人以上に投与され、皮膚科領域の革命といわれている。リンパ系フィラリア症は20年に、オンコセルカ症は25年にそれぞれ撲滅達成と予測されていた。メルク社から北里研究所に入る特許料は研究費、研究所の再建、病院建設に役立てており、ベッド数が日本で一番少ない埼玉県の本本市に北里大学メディカルセンターを新設した。(学)北里研究所は1700点の絵画を収蔵しており、傘下の3つの北里病院は医療に芸術を取り入れるヒーリング・アートの先駆けとなっている。

20年に、新型コロナウイルスの治療薬にイベルメクチンが有効との見解が米国

救急医団体FLCCCから発信され、英国BIRD GroupもFLCCCの見解を適正と検証し、英国政府にイベルメクチンの使用を推奨した。残念ながら諸般の事情からイベルメクチンはコロナ治療薬に承認されていない国が多い。安価なイベルメクチンが出回ると高価な後発薬を駆逐する可能性もある。インドでは、インド出身のWHOの主任科学者がイベルメクチンに対する偽情報キャンペーンを行い、インド弁護士協会から提訴されている。

イベルメクチンの開発により、私は15年にノーベル生理学・医学賞を共同開発者のキャンベル博士とともに受賞した。人との出会いを大切にしてきた私は、ノーベル賞受賞記念講演では「信条としてきた茶道の心得である一期一会」について話をし、講演を終えた。

Chemistry at Work

世界のインフラ整備。進化しつづける自動車や人工知能。

私たちの塩化ビニル樹脂、半導体シリコン、シリコン、電子材料といった素材は、社会の発展を支え、暮らしを豊かにしています。

信越化学グループは、素材と技術で地球の未来に貢献していきます。

Shin-Etsu
信越化学工業株式会社

「アセアン各国の政治地図」

インドネシア連携強化が最大の課題

FECは11月25日、本名純立命館大学国際関係学部教授を招き、「アセアン各国の政治地図」をテーマに第83回アセアン研究会をオンラインで開催した。梶尾雅也FEC日アセアン文化経済委員会委員長(味の素(株)取締役)の開会挨拶の後、本名教授が講演を行い、最後に質疑応答が行われた。

【講演要旨】

1967年に設立された地域機構ASEANは共同体構築の段階に入り、インド太平洋の地域秩序の枠組みの中心的な役割を果たしている。東南アジアは中国のBRI(一帯一路構想)や、日米両国が進めるFOIP(自由で開かれた太平洋構想)など、大国間競争の草刈り場となっている。BRIは中国と東南アジアを南北で繋ぐ地域でインフラ事業を推進し、FOIPは東南アジアの南部・東西の経済回廊に重点を置く。経済成長は政権基盤の正当性強化に重要であり(「生産性の政治」)、各国はこの2つの構想を活用し、「生産性の政

第83回アセアン研究会

本名純立命館大学
国際関係学部教授

治」の持続と、安全保障上の「リスクヘッジ」を政治行動の規範としている。中国と物理的に距離があるフィリピン、インドネシア、シンガポールは安全保障面では日米に近く、FOIPを優先させている。中国と近いミャンマー、ラオス、カンボジアはそのようなリスクヘッジができず二分化し、ASEANの一体性が形骸化している。近年はコロナ危機の政治インパクトとして、権威主義の強化や民主主義の後退が各国に共通してみられる。英国の調査会社によると、権威主義化したアジア7カ国中4カ国が東南アジアであり、東南アジアの民主主義達成国は皆無との評価だ。

2022年G20議長国のインドネシアは、23年にASEAN議長国となる。日本とインドネシアは23年に国交樹立65周年を迎える。日本にとってインドネシアはインド太平洋の地域秩序形成の重要なパートナーとなる。東アジアで日本は最古の民主主義国であり、インドネシアは最大の民主主義国だ。両国

の連携強化は二国間にとどまらず、インド太平洋の地域秩序における公共財として発展、定着させることが日本の外交課題として重要である。

24年2月に大統領選挙を控えるインドネシアは長丁場の選挙戦に入る。ジョコ・ウィドド大統領は憲法で3選が禁止されており、24年の大統領選では、ガンジャル・プラノウォ中部ジャワ州知事、プラボウォ・スビアント国防相、アニス・パスウェダン前ジャカルタ州知事の3人が最も有望視されている。インドネシアの大統領選挙は人気とともに政党政治の論理も動く。政党・政党連合が大統領候補を擁立するには、①前回の得票率25%以上、あるいは②国会議席保有20%以上の要件があり、人気と数によって大統領候補が絞られる。

人気の高いガンジャル擁立を巡って、ジョコ政権の最大与党である闘争民主党のメガワティ党首は長女・プアン国会議長を推す観測もあり、党内分裂の懸念がある。24年2月の大統領選



挙は上位2人の決戦投票にもつれ込む公算も高い。ガンジャル対プラボウォの決戦投票では、若い世代に人気のあるガンジャルが勝利しよう。

ガンジャル対アニスの場合には、宗教や権利保護が全面に出る選挙戦となり、イスラム強硬派に近いアニスは有権者に警戒され、各種少数派集団の票が宗教的多様性を容認するガンジャル支持で固まるのではないかと見られる。大統領選後、ガンジャル政権となっても同じ政党の現ジョコ政権の路線が継続されよう。

ガンジャルの対日感情は良好であり、インドネシアの課題であるジャワ島以外の開発を含めて、日本のプレゼンスへの期待が大きくなると予想される。首都移転やジャワ島以外の開発に消極的な日本にとって、インドネシアの認識を変えるチャンスになるかもしれない。

「大国の道を歩むインド～モディ外交の行方」

中国への対抗策「クアッド」が重要

FECは12月6日、伊藤融防衛大学校人文社会科学群国際関係学科教授を招き、「大国の道を歩むインド～モディ外交の行方」をテーマに第79回インド研究会をオンラインで開催した。松澤建FEC理事長の開会挨拶の後、伊藤教授が講演を行い、最後に質疑応答が行われた。

【講演要旨】

インドは「理解できない国」といわれる。日本はインドを仲間として取り込もうとするが、他方インドは中国、ロシアにも非常に近い。22年5月、東京で日米豪印(クアッド)首脳会合が開かれた。中国を念頭に置き自由民主主義国の連携強化に狙いがあった。インドはこの会合に参加する一方で、5日前にBRICS外相会合にも参加しており二面的な外交を展開している。ロシアのウクライナ侵攻後、インドは国連安保理の対ロシア非難決議を棄権し、ロシア産石油の輸入を急増させた。ウクライナ支援物資を運ぶ日本の自衛隊機のインド着陸も拒否された。インドは、巨大な人口(14億人)を背

第79回インド研究会

伊藤融防衛大学校
人文社会科学群国際関係学科教授

景に経済が成長している。中国と異なり世界最大の民主主義国だ。21年のインドのGDPは世界6位で20年代後半には日本を抜き、軍事費では50年に中国に肉薄すると予測される。GDPと軍事費で世界シェアが高まるインドの立ち位置は、今後のインド太平洋地域の行方にも大きな影響を与える。

インドの外交特性の第1は自分たちが大国であるという意識を非常に強く持っていることで、そもそも南アジア地域においてインドは周辺諸国に対し圧倒的な存在であった。しかし、冷戦期のインドは限定的な力しかもたなかったため、ネルーは「理念」の外交として非同盟運動を進め、冷戦後はハードパワーの増大とともに「世界大国」へ向けた外交を展開している。

第2として自主独立外交へのこだわりも強い。インドは大国との「同盟」を忌避し、「ジュニア・パートナー」化を否定する。冷戦期の「非同盟」時代、ソ連との平和友好協力条約で自主外交が奪われ、各国から疎遠な存在となった反省がある。冷戦後はすべての

大国、新興国と緊密な関係を構築する「戦略的パートナーシップ」を志向している。西側各国は対中国抑止という思惑からインドを取り込んだ。中国、ロシアはユーラシア大陸の西側秩序入りを懸念しインドを取り込もうとした。中国を警戒するロシアは、1990年代にRIC(ロシア・インド・中国)の枠組みを提唱し、SCO(上海協力機構)へのインド取り込みにも熱心だった。友好国以上同盟国未満の関係としての「戦略的パートナーシップ」により、インドは「戦略的自律性」を維持できると考えた。

第3の外交特性は、インド独自の実利主義としての「リアリズム」だ。古代インドの名宰相カウティリヤは『アルタシャストラ(実利論)』で、国益追求の正当化、「弱肉強食」としての「国際社会」、「隣接国」は本質的に「敵対者」、永遠の「友邦」は存在しない、と表した。対外政策では、和平・戦争・休止・進軍・庇護要請・二重政策などの策を組み合わせて実利を追求する伝統が根付いている。



最近のインド外交は「域内」現状維持、「域外」修正主義の力学が働く。インド「域内」への中国の影響力拡大に対抗する枠組みとして、クアッドが最も重要だ。印米関係は原子力協力協定、安全保障協力、クアッドで緊密化し、中国とは、「関与」(貿易、グローバル経済秩序)と「警戒」(国境問題、一帯一路)の両側面の関係だ。ロシアとは、「時の試練を経た」関係(兵器、原子力協力、政治的支持)であり、重要性は相対的に低下した。

日印関係について、有事の際は独力で対処するインドと対米同盟を基軸とする日本では温度差があり、軍事協力面では制約がある。他方、非軍事面では、インド内外の連結性インフラ開発支援、「債務の罠」問題への対応、脱中国、脱露のサプライチェーン構築、インド近隣国の民主化・安定化などは日本との協力が可能だ。

The possible will be forever

ShinEtsu Group
長野電子工業株式会社

〒387-8555 千曲市歴代1393 TEL.026-261-3100 FAX.026-261-3131

KPMG あずさ監査法人

〒162-8551
東京都新宿区津久戸町1番2号
あずさセンタービル
TEL 03-3266-7500(代表)

〒100-8172
東京都千代田区大手町1丁目9番7号
大手町フィナンシャルシティ
TEL 03-3548-5100(代表)

第262回 国際研究会

カナダ文化フォーラム

多くの分野で関係深まる可能性



FECは11月29日、第262回国際研究会（カナダ文化フォーラム）を在日カナダ大使館で開催した。

当日は、雨にも関わらず多くの会員とその関係者が集まり、開会まで大使館の地下スペースにある図書館や展示室でカナダの文化や芸術を熱心に鑑賞していた。その後、マッケイ駐日カナダ特命全権大使とともに記念撮影後、参加者はホールに移動しフォーラムが開始された。

はじめに松澤建FEC理事長が「本日はFECカナダ文化フォーラムに多数ご参加頂き感謝申し上げます。そして何より大使閣下のご厚意によりカナダ大使館にてフォーラムが開催できた事に、大使閣下をはじめ館員の皆様へ厚く御礼申し上げます。日本と同様にカナダは民主主義を理念としている国だが、世界中が混沌としている昨今、カナダとともに民主主義を守っていききたい。建国以来、素晴らしい歴史と広大な土地があるカナダとそこに住む人々の未来は輝かしいと思っている。本日は文化を通してカナダの偉大さ、大きな可能性を知って頂ければと思っています」と開会挨拶を行った。



続いてマッケイ大使が日本語で「本日はカナダ大使館にお越し頂き感謝申し上げます。FECの会員の皆様は国際関係への理解を常に深めていると聞く。日本とカナダは永年にわたり家族のような絆があり、貿易関係、政治的パートナーシップ、防衛協力、教育やスポーツ、文化交流などを、草の根活動から政府の政策に至るまで多くの人々が育んできた。

私は16歳の時に北海道の池田町に交換留学生として日本に来た。その時の来日以来、日本への特別な思いを強くした。こうして駐日大使として今があるのも、

42年前の日本の方との暖かい交流があったからだ。

日本とカナダの近年の二国間関係は、2021年5月に両国の外務大臣が表明した、「自由で開かれたインド太平洋地域構想に基づく6つの協力分野」（法の支配・平和維持活動・健康安全保障・エネルギー安全保障・自由貿易の促進・環境及び気候変動）が挙げられる。これは二国間だけでなく地域間協力にも積極的に取り組む内容になっている。カナダは日本との関係を重視している。さまざまな分野で関係が深まる大きな可能性を感じ

る。皆様一人一人がカナダと末永く付き合ってください事を願っている」と歓迎挨拶を行った。

その後、マット・フレーザー参事官（広報部長）、ステイブ・ラポイント一等書記官（広報）によるカナダ文化のプレゼンテーションが行われた。参加者はカナダに対する関心が高く、プレゼンテーションを熱心に聞いていた。最後は改めて大使館の公共施設を見学し幕を閉じた。

《カナダの文化》

世界で2番目に大きな国土を誇る国、カナダ。気候や地形、景観は場所によって大きく異なり、雄大な自然、広大な大地が醸し出す美しさは多くの観光客を惹きつけている。

また、欧州だけでなくアジアやアフリカ系の人々を積極的に受け入れ、その人々の文化的背景を大切にすることでそこに根付く文化も多様性に富んでいる。

論点 「自由で開かれたインド太平洋」で牽引を

国際情勢が世界中の人々の生活に大きな影響を与えている。世界中の人々がこの状況を何とかして欲しいと願っている。

日本は今年、国連安保理の非常任理事国であるとともに、G7の議長国であり、岸田首相は5月の広島でのG7サミットを控え、年明け早々にG7諸国を歴訪し、首脳会談を重ねた。このような努力の積み重ねから、世界を明るくする成果が生まれていくことを強く期待したい。

国際情勢の中でも最も重要なのは、ロシアによるウクライナ侵攻の行方と、習近平体制が出来上がった中国の動向及び先鋭化する米中対立の動向である。

このうち中国をめぐる国際関係については、中国の隣国であり、歴史的にも政治的にも経済的にも文化的にも中国と深い縁のある日本が出来ること、やるべきことが多い。米国と中国に働きかけて、米中関係を望ましい方向に誘導することが大切である。

米国だけで事態を收拾出来る時代は終わった。米国の考え方、やり方ではうまく行かないこともあり、主要国が冷静に協力して事柄に対処することが必要な場合が増えている。

米国は3月に2回目の民主主義サミットを開くと伝えられているが、体制を異にする国々の間で対立や対

決をもたらすようなことになるのであれば、世界の平和や繁栄の構築に逆行することにもなりかねない。

中国も自国の安定、発展のためには経済発展が大切であり、そのためには国際協力を求めざるを得ない。

この点に関連して、昨年12月に閣議決定された安保3文書に関して、「反撃能力」の保有が明記されたことや中国について「これまでにない最大の戦略的な挑戦」と位置づけたこと等に関心が集中した感があるが、「国家安全保障戦略」の我が国が優先する戦略的なアプローチの項で、我が国は中国との間で、様々なレベルの意思疎通を通じて、主張すべきは主張し、責任ある行動を求めつつ、諸懸案も含め対話をしっかりと重ね、共通の課題については協力していくとの「建設的かつ安定的な関係」を構築していくとされたことに、目を向けたい。

この観点から、日本が提唱し広く受け入れられている「自由で開かれたインド太平洋」の実現を国際情勢改善の柱にすべきであろう。米国をアジア地域に引き込み、中国にルールを守らせ、欧州諸国の関与を確保し、世界経済の牽引役としてのインド太平洋地域の安定と発展を実現するのである。G7サミットで目玉の一つにして欲しい。

（専務理事・湯下博之）
1月12日付

FEC 活動日誌

2月の催しのご案内

◆7日（火）16時～17時（日本時間）

第84回アセアン研究会

講師：金杉憲治駐インドネシア日本大使

テーマ：最新のインドネシア情勢

会場：オンライン

◆16日（木）11時～12時30分

第143回欧州研究会

内容：文化フォーラム

会場：ラトビア大使館

◆21日（火）14時～16時

第111回中国研究会

講師：川島真東京大学大学院総合文化研究科教授

テーマ：第20回党大会と習近平政権の行方

会場：オンライン

詳細、最新情報は本協会ホームページ（<https://www.fec-ais.com>）をご覧ください。ただか、事務局（電話03-3433-1122）にお問い合わせ下さい。いずれも定員に達し次第締め切りとさせていただきますので予めご了承ください。

ホームセキュリティは
ALSOK

ALways Security OK 新潟総合警備保障株式会社
サンキュー ツヨイミカタ <https://www.ngtalsok.co.jp/>
0120-39-2413 (年中無休) (24時間受付)

やさしく触れていいですか。
elleair
エリエール

大王製紙株式会社 新聞用紙・出版用紙・印刷用紙・情報用紙
包装用紙・機能材・段ボール原紙・家庭用品